

# 手紙

堀辰雄

青空文庫



## 野田君

また悪いさうだね。だから言はないこつちやない。ちつと寝て  
ゐたまへ。病氣はこつちで辛抱強く馴らしてやるがいいんだ。一  
度馴れてしまつたら、こんなに可愛い奴はない。

池谷さんが死んだんでこれからお葬式に行くところだ。時間が  
半端なので、いまコロンバンで、珈琲をのみながら、この手紙を  
書いてゐるんだ。

前から君に「オフエリヤ遺文」のことを何か書けと言はれてゐ  
るので、何か書かう書かうと思つてゐたが、この頃僕は非常に混

亂した氣持であるんだ。それで、「オフェリヤ遺文」を書きながら小林が行つてゐたやうな、あんな遠いところまで、とても今の僕にはついて行けさうもない。

しかし今度「オフェリヤ遺文」を讀み直して、いままでとは全然異つた興味をもつて僕はこの作品を眺め出してゐる。どんな興味かといへば——簡単に言つてしまふと、僕は今度こんなアムビシアスな作品が書いて見たくなつてゐるんだ。

これは小林の私小説であると同時に、自分とはまるで異つた他人の中に自分を生かさうとした小説ではないかしらん。さうしてさういふ底の小説を書いた小林の氣持が三年もかかつて漸つと僕に解りかけてきたやうな氣がする。

これは小林の「エグモント」だったんだ。僕は最近ゲエテの「エグモント」を讀んだが、あれを書いたゲエテの氣持が非常によく解つた。「ゲエテはデモンに憑かれてリレイとの戀に落ちた。もしその戀を遂げてしまつたら、ゲエテは自滅する他はなかつたらう。しかしゲエテはその一歩手前に踏み止つて、それと同じ道を最後の一步まで行つて自滅するエグモントを書いて自分自身を救つた。」たしか鷗外がゲエテ傳の中でそんなことを書いてゐたと覺えてゐる。

恐らく小林がオフエリヤを書きたかつたのはそれと同じ氣持だったんではないかと思ふ。デモンに憑かれた小林にはそれをふり落すためには、一人のオフエリヤを書くことが絶対に必要だった

んだ。

しかし小林がオフエリヤを書いた動機はそれに盡きてゐない。

ゲエテはエグモントを描くために、實際は當時既に妻子のあつた相當の年輩の男だつたのに、自分の戯曲のなかでは彼を若い獨身者として取扱つてゐる。自分に引き寄せたんだ。しかし小林はこ  
とさら自分とは似ても似つかないやうなオフエリヤを選んでゐる。

小林はそのなかに自分を生かしながら、しかも自分とはまるで異つた他人を描かうとしたんだ。なんといふアムビシアスな仕事だらう。——しかしデモンをふり落すことには成功した小林も、どこまでその他人を描けたか？ 見事にそれには失敗した。

そのすばらしい失敗以來、小林はこの種の作品をまだ書かずに

る。しかし書きたくつて書きたくつてしようがないらしい。僕はその作品を非常に待つてゐる。

小林よ。デモンに憑かれる！ 憑かれる！

### 追伸

さつきの手紙を北原君に托してコロンバンを出てしまつてから、町の中でひよつくり二三日前に讀んだりヴィエールの「エチュード」の一節を思ひ浮べた。——ヂイドが「窄き門」のアリサを描いた動機には、最初はああいふ自己犠牲に對する諷刺の意圖があつたのだが、ヂイドは遂にアリサに打負かされた。ヂイドはアリ

サを殆んど自分の意に反して（[Malgre lui]）書き上げた。――

――と云ふやうな一節だ。さうして僕は一瞬間はつとした。小林がオフエリヤを描いたのにも、そんな諷刺の意圖があつたんぢやないかといふ疑ひが起りかけたんだ。しかし、いや、いや、恐らくさうではあるまい。今度小林に會つたら、聞いて見たい。

さう言へば、「オフエリヤ遺文」の中では、小林はあまりにオフエリヤに打勝ちすぎてゐた。アリサに對するチイドのやうには、ちつとも相手に打負けてゐるところがなかつた。――それが一番あの作品をあんなに公衆に解りにくくさせたんだな。そりあ小林に責任がないとは言へない。

とにかく、まあ、なんといふ込み入つた、いろんなことを考へ



させる作品だらう。考へ出せば切りがありあしない。それも小林が書いたことそのものより、その書いたことからあいつが何を書かうとしたかを引き出して行けば行くほど面白くなるのぢやないかしら。さうなると作品の出来不出来なんぞは問題ぢやなくなつてくる。こつちですこし本氣になつてそれに向つてゐると、作者自身が大へんなものにぶつかつてしどろもどろになつてゐる様子がはつきり浮んでくるが、しかしそれは作者の方ばかりぢやなしに、こつちまでひどくしどろもどろにさせずには措かないやうな、底の知れない、氣味の悪い作品だ。

君はもつと本の装幀のことなど僕に書かせたかつたんぢやない？　しかし、僕はいまそんな餘裕のある氣持ちぢやないんだ。いい

本はとてもしい本だとも。

# 青空文庫情報

底本：「堀辰雄作品集第四卷」筑摩書房

1982（昭和57）年8月30日初版第1刷発行

初出：「ヴァリエテ 第四号」三才社

1934（昭和9）年1月1日

入力：tatsuki

校正：染川隆俊

2011年3月9日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www>

W.aozora.gr.jp) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランテイアの皆さんです。

# 手紙

堀辰雄

2020年 7月13日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>